



もてぎの決勝レースでは、佐藤（12号車/予選2番手）と宮下（13号車/予選3番手）がバトルを展開。宮下が2位、佐藤が3位となり、宮下がRBプライズ1位、佐藤が同2位に。もてぎには佐々木孝太がスポット参戦し、ポール・トゥ・ウィン。佐藤がしぶとく食らいついても及ばず、さすがの実力を見せた。(as)



もてぎでのRBプライズ3～5位の受賞者たち。上から、RBプライズ3位の黒沼（決勝5位）、同4位の新倉（決勝6位）、同5位の安井（決勝7位）。第2&3戦SUGOでも「サムライRBプライズ」として、のべ10人のドライバーに土屋氏から賞金が授与された。(as)



JAF F4 NEWS

Vol.1
Paddock
2022 FORMULA 4 CHAMPIONSHIP
国内唯一開発競争のある
ミドルフォーミュラF4の魅力を探る

Text ● 大串 徳 (Makoto Ogushi) Photo ● 酒井聖一 (Seichi Sakai)

土屋武士アドバイザー創設「サムライRBプライズ」 飛躍へのエネルギーに。

JAF F4を運営するF4協会
は2022年シーズン、主催者による賞金に加え、各大会で活躍した5名のドライバーに対し、「RBプライズ」を授与することになった。3月6日にモビリティリゾートもてぎで開催されたシリーズ第1戦で、宮下源都に6万円、佐藤樹に4万円、黒沼聖那に3万円、新倉涼介に2万円、安井和明に1万円が「サムライRBプライズ」として授与されている。

は希有なカテゴリーです。昨年、シリーズの存続が危ぶまれる状況に追い込まれたとき、おせっかいながらも押しかけてアドバイザーとなってから、カテゴリーとして直面しているいろいろな問題点も見えてきました。そのうちのひとつが、昔と比較すると賞金額が充分ではないということでした。それなら、賞金を自分が用意しようと思っただけです。もちろん、自分が稼いだお金のなかからの少ない額ですよ。僕自身もレーシングチームを運営してお金にそれほど余裕があるわけではありませんが、でも、これでも少しでも羽ばたいてくれればという思いでした」

「RBプライズ」を提案したのは、21年にF4協会のアドバイザーに就任した土屋武士氏。賞の名称から想像がつくように、第1戦での賞金は土屋氏のポケットマネーから用意されたもので

今回のサムライRBプライズには、



土屋アドバイザーは、ドライバー、レーシングカテゴリー経営者、両方の立場で経験がある。そうしたことも、今回の賞を創設したことにつながっているはずだ。(as)

ある。
「RBプライズのRBは、Race Beatの略で、Beatには羽ばたくという意味があり、F4というレースから羽ばたいてほしいという思いを込めた名前です。でも、本当の意味は、言葉は悪いですが、いい意味での「レースバカ」なんです。彼らのための賞金です」と土屋氏は笑う。

JAF F4レースの安全性を少しでも高めようという狙いがある。現在、JAF F4では、常に進化化するFIAの安全基準を満たすことは難しいが、数年前の安全基準による車両も参加することが可能だ。ハードウェア的な安全性を高めることが急務であることは土屋氏も分かっている。しかし、ハードウェアの改変には費用も時間もかかり、経済的にそれほど余裕がないドライバーが主役のJAF F4では、一朝一夕に実現することはできない。土屋氏は、それ以前に重要なのは参加

が無駄になってしまつと、土屋氏は危惧しているのだ。RBプライズは、その意識改革を促進するための賞と位置付けられており、プロドライバーや仕事で乗っているドライバーは賞典資格から除外されている。そういうドライバーはマナーを身につけていて当然だからだ。

「お金をもらえないかもしれないけど本当にレースが好きで人たちが活躍できるカテゴリーは少なくなつてしまったので、なんとかして残していかなければいけません。僕自身、このカテゴリーにお世話になって、いまがあります。より良くできることはたくさんありますので、関わる限りはちゃんと役立つと思っております。面倒は面倒です（笑）。でも、期待してくれる人がいる限り、なんとか頑張ろうと思っています」

者の意識改革だと考えている。
「年々、（レーシングカーの）安全基準は高くなっていきます。それはとても良いことですが、それに伴ってシリクスなクラッシュも増えているように感じています。以前は空に飛び上がってしまうようなクラッシュは頻繁には起きていなかった。なぜなら、みんな何かあればケガをするということが分

が無駄になってしまつと、土屋氏は危惧しているのだ。RBプライズは、その意識改革を促進するための賞と位置付けられており、プロドライバーや仕事で乗っているドライバーは賞典資格から除外されている。そういうドライバーはマナーを身につけていて当然だからだ。

「お金をもらえないかもしれないけど本当にレースが好きで人たちが活躍できるカテゴリーは少なくなつてしまったので、なんとかして残していかなければいけません。僕自身、このカテゴリーにお世話になって、いまがあります。より良くできることはたくさんありますので、関わる限りはちゃんと役立つと思っております。面倒は面倒です（笑）。でも、期待してくれる人がいる限り、なんとか頑張ろうと思っています」

「ドライバーの安全への意識改革がレースとドライバーの質を上げる」

かっていたからです。安全基準は高くなった。でもその前に、危ないことをしてはダメなんです。ハード面の安全基準はすぐには変えられませんが、ソフト面、みんなの意識は変えることができます」

「RBプライズ」を提案したのは、21年にF4協会のアドバイザーに就任した土屋武士氏。賞の名称から想像がつくように、第1戦での賞金は土屋氏のポケットマネーから用意されたもので

近年のドライバーは多少のクラッシュではケガをしないとラフプレーに走りがちで、それではせっかくの安全基準

「サムライRBプライズ」として始まったが、この考え方に賛同してくれる協力者がいるならもちろん大歓迎で、状況次第では賞典の内容をさ



F4選手権はダンロップタイヤのワンメイクレースです。

